

149
312

曹洞宗紛議要畧及附言

曹洞宗
能山派
檀信徒同盟懇話會出版

019694-000-1

特16-784

曹洞宗紛議要畧及附言

住田 淺吉 / 著

M27.6

ABG-0488



曹洞宗紛議要畧及附言

(一) 兩本山寺格之差異



總持寺ハ後醍醐天皇ノ御宇元亨二年大本山タルノ勅許ヲ受ケ爾來今日ニ至リ大本山タル寺格ヲ變シタルヲナシ反之永平寺ハ總持寺ノ大本山ヲ勅許セラル後二百有餘年ヲ經テ後奈良天皇ノ御宇天文八年大本山ノ勅許ヲ得タルモ其手段タル虛構詐畧ニ出タルヲ發覺シテ翌天文九年右勅許ヲ取消サレ稍ク元和元年徳川幕府寺格取調ノ際本山タル朱印條目ヲ受ケタルノミニテ今日ニ至リ未タ本山タルノ勅許ヲ受ケタル

(參照)

天文八年ノ勅詔

當寺事依爲日本曹洞第一可爲出世道場之旨應安度被成勅裁之處去文明五年依回祿令紛失之由被聞食訖不可有相違之旨天氣所候也仍執達如件

天文八年十月七日

永平寺住持 輝室

左中 錄 晴

光

能州風氣至郡柳比庄諸嶽山總持寺門派之衆明應年中以來於永平寺山居之地成出世儀式若紫衣黃衣背先例剩永平寺爲出世之道攝之旨雖帶應安勅裁令紛失之由去年企謀訴掠賜給旨之條太以不可然所陞任道元和尙遺文之旨自今以後被停止詔存其旨彌可奉新皇家再興者天氣如此仍執違如件

天文九年二月廿七日

左中辨 列

當住普應和尙禪室

附言

永平寺ハ本宗ノ開祖ナリトスルモ其寺格ニ至テハ總持寺ノ下ニ立ツヘキモノナリ况ンヤ永平寺開山承陽大師ノ垂訓ニ依ルモ堅ク該寺ノ本山トナルヲ戒メアレハ今日永平寺カ本宗大本山タラントスルハ開祖ノ遺教ニ背戾スルハ勿論寺格ノ由緒ニ於テモ僧越ノ甚クシキモノ也

就中永平寺カ後奈良天皇ノ御宇詔勅ヲ掠メ奉リ貪慾ヲ逞フスルノ一

事ニ至ツテハ醜陋ノ極ト謂ツヘシ

之ヲ要スルニ總持寺ハ勅許ノ大本山ニシテ永平寺ハ單ニ徳川家ノ認メタル本山タルニ過キサレハ其尊威自カラ種別ノアル在テ到底年ヲ同フシテ語り得サルモノ也

(二) 兩本山多年ノ紛争及一旦鎮定シタル事

總持寺永平寺各派争端ノ胚胎ハ遠ク數百年以前ナルモ元和元年即チ徳川幕府朱印條目ヲ發表セシ時ヲ以テ始メテ本山争ヲ開發シ爾後兩本山相反目シテ寧日ナク毎訴永平寺ヨリ争論ヲ起シ特ニ大紛擾ヲ醸セシメ六回ノ多キニ及ヒ終ニ明治五年ニ至ル迄一年ノ間斷ナク其論争ヲ繼承シタリ

明治五年大藏省戶籍寮ハ多年ノ紛争ヲ絶シカ爲メ兩本山ニ對シ演達ヲ下シ兩本山盟約ヲ締結セシメ自今本山寺格上ニ關スル訴願ヲ止メシメタリ

往古各派獨立セシキハ專ラ本山寺格ノ爭論ニテアリシ故ニ大藏省戶籍寮ノ演達又ハ兩山盟約ヲ以テ双方共各派獨立本山タルヲ認メシメタリ仍テ獨立本山タルノ寺格ハ最早動カスヘカラサルモノトナレリ若シ此寺格ニ就テ訴願セントスルモノアランカ之レ即チ盟約違反者ナリトス宜シク盟約ニ定ムル制裁ヲ加フヘキモノナリ皮相論者ハ演達ニ(向後政府ニ訴願ヲ爲ス勿レ)トアル其訴願トハ特リ本山件訴願ニ止ラスシテ百種ノ場合ヲ包含スト爲スモノアリ又盟約第九條ノ訴願ノ文字モ均シク如斯ク解スルモノナキニ非ト雖モ之レ演達盟約當時前後ノ關係主旨目的ヲ辨ヘサルモノ、誤想ニシテ固ヨリ無制限ニ訴願ヲ爲ス勿レト達シ或ハ一切ノ訴願ヲ爲サスト盟約スルカ如キ恐ヲ爲スモノアラン况ヤ假令如此盟約ヲ爲スモ法律上其効力無キニ於テヲヤ

(三) 兩本山第二回紛擾ノ原因

明治十二年兩本山盟約ヲ定メタルモ永平寺ハ此盟約ヲ奇貨トシテ種々陰謀ヲ企テツ、アリシカ明治廿四年ニ至リ永平寺派ヨリ從來ノ兩本山住職ヲ廢シ曹洞宗管長一人ヲ置キ兩山住職ヲ併掌セシムル宗制原案ヲ諮問會ニ提出セシメ陰々裡ニ永平寺ニ實權ヲ併吞セントシタルヲ以テ總持寺派末寺檀徒非常ニ激昂シ紛擾ヲ醸スニ至レリ尋テ此紛擾中永平寺住職欠員ヲ生シタルヲ以テ該住職ノ選舉ヲ行ヒタルニ其選舉會組織並ニ投票審査ノ手續上大ニ不法ノ行爲アリタルカ爲メ一層紛擾ニ熱度ヲ加ヘ末派寺院ヨリ其投票再審査ヲ内務省ニ出願シタリ

附言

明治廿四年永平寺派ハ諮問會ニ依テ盟約ヲ廢改シ新宗制ヲ定メント企テタリ然ラハ則チ盟約ヲ廢改スルノ必要アルハ永平寺派既ニ認

ムル處ニシテ又盟約ノ廢改ハ管長之ヲ實施スルモ盟約違反ニアラサルコトハ承認シ居タルモノト云ハサルヘカラス何トナレハ後日管長カ新制ノ認可ヲ出願シタルヲ盟約違反ナリトスル永平寺派自身カ早ク既ニ其盟約違反ヲ企テタリシ事實明存シ居レハナリ

又選舉ノ一事ニ付テモ其選舉會ノ組織ニ不法(立會スヘキモノヲ退ケ立會權利ナキモノヲ立會セシメタリ)アルヲ以テ其投票ハ既ニ全部無効ニ歸シ居ルモノナリ況ンヤ其投票審査ノ方法ニモ種々ノ不法アルニ於テヲヤ焉ソ再審査又ハ取消等ノ蛇足手續ヲ要センヤ

(四) 管長分離布達及請願

明治七年四月ヨリ兩本山住職管長トナリ明治五年大藏省戶籍寮演達ノ主旨ニ基キ兩山貫首年々交番ニ管長職ヲ行ヒ當番管長ハ兩本山ノ全權ヲ總理シ一宗ヲ統轄シ時機ニ依リ宗規ヲ創制シ若クハ改定シ之ヲ宗内ニ頒布シ遵守セシムル等ノ權限ヲ定メラレタリ明治廿五年管長(總持寺

住職)ハ此權限ニ依リ從來ノ宗規ヲ廢スヘキ旨ヲ普達スルト同時ニ新タ

ニ能本山ノ宗制即チ分離ノ制ヲ設定シテ其認可ヲ內務省ニ申請シタリ

附言

前項付言ノ如ク兩山盟約ハ却テ當初ノ目的ニ反シ兩山紛争ノ媒タルニ過キササルヲ以テ明治廿五年ニ及テ管長畔上禪師斷然之ヲ廢棄シ分離ノ新制ヲ布クニアラスンハ到底宗内ノ治安ヲ保ツ能ハサルヲ看破シ宗制第二號第一章第二條ノ權限ニ依リ分離新制ヲ定メント爲タルハ時勢ノ必要上適當ノ處置ニシテ管長ノ職權上非難スヘキモノニアラサルナリ

皮相論者動モスレハ之ヲ以テ總持寺カ永平寺ニ對シテ訴願ヲ爲シタリト云フ何ソ知ン其訴願ヲ爲シタルモノ假令總持寺ノ住職ナリト雖モ其資格ハ管長ニシテ宗制第二號第一章第二條ノ如ク兩本山全權ヲ總理スルモノナルノミナラス特ニ必要ナル場合ハ新宗制制定ノ職權

アルヲ規定シアルニ於テヲヤ

(参照)

宗制第二號第一章第二條

曹洞宗管長ハ一宗ヲ統管シ宗教ヲ維持スル爲メ時勢ノ進度風尚ノ沿革ニ因リ宗規(法例)規約章程ノ類ヲ創制若クハ改定シ之ヲ宗内ニ頒布シ遵守セシムルヲ得ル

宗制第一號第三條

曹洞宗管長ハ兩山其首毎一年交替ヲ以テ之ヲ勤ムルヲ定規トス曹洞宗務局ニアリテ兩本山ノ全權ヲ總理ス

(五) 森田師越權ノ申告ヲ爲シタル事

永平寺新選未確定住職森田師ハ其投票再審査出願中ノ結果未タ其資格確定セサルヲ以テ任期ニ管長トナルヲ得ス隨テ禪師號ヲモ拜受セス晋山式ヲモ行ハス即チ自身其住職タルコト未確定ナルニモ拘ラス明治廿五年管長(總持寺當番)カ職權上兩山分離ノ新制認可ヲ内務省ニ出願シタルヲ兩山盟約第九條ニ該當スル破約ノ責アリトテ總持寺住職ニ對シ退隱ノ

申告ヲ爲シタリ

總持寺住職ハ右申告ヲ不法ナリトシテ承認爲サ、リシ

附言

森田師ノ選舉ニ付テハ前第三段ニ付言シタルカ如ク其選舉元來無効ノモノナレハ永平寺ニ住職タル資格アラサルモノナリ又假ニ其資格アリトスルモ内務省カ資格審査ヲ終ラサル内ハ未確定ノモノナルコト現ニ内務省カ管長職ノ認可ヲ爲サ、ル等ノ事實ニ徴スルモ明カナリ(内務省カ衆議院ニ對スル答辨查參看)已ニ其住職未確定ナル上ハ完全ニ住職タル權利ヲ行使スルヲ得サルモノナルニ總持寺住職ニ對シ退隱ノ申告ヲ爲シタルカ如キハ不法ノ行爲ト云ハサルヲ得ス殊ニ當番管長總持寺住職カ兩山總代ノ資格ヲ以テ宗制第一號第一章第二條ノ權限ニ依リ分離ノ新制認可ヲ求メタル事實ハ毫モ盟約第九條ノ訴願ニ該當セサルモノナレハ其退隱申告ノ不法ナルコト益々著明ナルニア

ラスヤ

又退テ永平寺住職ノ資格ヲ確定ノモノト假定シ總持寺住職ヲ管長ニアラサルモノト假定スルモ盟約第九條ノ精神ハ該分離請願ノ如キ場合ヲ指示セル者ニアラサルナリ何トナレハ第九條ニ所謂互ニ訴願ヲ爲サ、ルヲ契約セシハ古來本山權ヲ爭論セシヲ以テ之ヲ停メシカ爲メ爾來本山寺格權ノ義ニ就テハ相互ニ訴願ヲ爲スマシト契約セシニ過キサレハナリ然ラスンハ法律上何等ノ事ニ付テモ訴願ヲ爲サスト契約スルハ元來無効ノ契約ニ屬スレハナリ然リ而シテ分離ノ請願ハ本山寺格權ノ訴願ナリヤト云フニ其然ラサルヲ言フヲ待タサレハ此請願ノ場合ニ第九條ノ制裁ヲ適用シテ退隱ノ申告ヲ爲シタルハ實ニ不法ノ處置ト見做サ、ルヲ得サルナリ

又更ニ退テ假ニ其申告ハ合法ノモノナリトスルモ其申告ヲ爲ス前ニ於テ果シテ管長ノ行爲ハ盟約第九條ニ該當スルモノナルヤ否ヤノ事

實ヲ確定スル手續ヲ經サルヘカラサルニ事此ニ出テス臆恻妄斷シテ直チニ其申告ヲ爲スカ如キ實ニ不當不法ノ手續タルヲ免ル能ハサルナリ

(參照)

盟約第九條(宗制第一號)

自今一旨ノ訴願等替テ政府ニ奏スル勿レトハ大藏省演達ノ大意ニシテ兩山等シテ敬承セシ處ナリ是故ニ若シコノ盟約ニ背キ一方ノ本山ヨリ訴願ヲ企ツルハ其貫首ハ自ラ本山ノ權利ヲ拋棄セルモノト認ムルヲ定規トナス

但越本山ヨリ之レヲ企フレハ能本山貫首ハ直チニ該事ヲ未派ニ報告シ越本山貫首ヲ退隱セシムルノ全權ヲ有スルモノトス能本山ヨリ之ヲ企フレハ越本山貫首之レカ處置ヲナスコト同然タルヘシ

明治廿六年十二月十九日政府ノ答辭書(摘要)

曹洞宗本山永平寺住職選舉投票調査ノ件

内務大臣ハ現行法規並ニ明治十七年太政官第十九號第四條ニ基キテ認可シタル宗制ニ依リタル宗派ヲ監督スル職務ヲ有スルモノニシテ宗内僧侶ノ請願ノ有無ニ拘ラス本大臣ハ特ニ曹洞宗永平寺住職選舉投票ニ關シテ調査ニ着手シ之ヲ當時管長及事務

取扱ニ下問シタルモ其間管長及事務取扱ノ交迭等アリ又事務取扱ノ間意見ヲ異ニシテ事願ル錯綜ニ涉ルヲ以テ今尙調査中ナリ

(六) 森田師越權ノ處分ヲ爲シタル事

明治廿六年永平寺住職スラ未確定ナル森田師カ自ラ侵カシテ總持寺住職ノ兼務者ト稱シ擅ニ總持寺現役員ヲ悉ク免職シテ新々ニ新役員ノ任命ヲ行ヒ直チニ舊役員ニ對シ事務ノ引渡ヲ強制セシメ尙進テ裁判所ヘ假處分ノ申請ヲ爲サシメ總持寺ノ佛祖像其他ノ物件數多ヲ押収シタリ

附言

盟約第七條ニ兩本山貫首ハ全國未派ノ撰舉ヲ以テ定ムヘキコト規定シアルニ森田師ハ此盟約ニ背キ永平寺住職タルコトモ定マラサル身ヲ以テ兼任ノ名ヲ冒セリ尤モ曩ニ永平寺貫首交代ノ際一時空位アリタルカ爲メ總持寺貫首ニ囑托シテ兼任ヲ受ケタル一例アリタレトモ彼ノ場合ハ合意上好意ニ出タルモノニシテ森田師ノ如キ自擅ニ盟約

ヲ破リ兼任ト爲リタル類ニアラサルナリ要スルニ森田師ノ兼任ハ權能ナキ不法ノ行爲ニシテ無効ナルヲ免レサルナリ然ルニ森田師ハ謂レナク總持寺現役員ヲ免職セシメ越權ニモ新役員ノ任命ヲ行ヒ進テ舊役員ヘ事務ノ引渡ヲ強制スルニ至ツテハ言語道斷ト云フヘシ尙加フルニ裁判所ニ假處分ノ申請ヲ爲シ市井ノ小民モ耻トスル薄徳ノ手段ヲ以テ畏クモ佛祖ノ尊像ヲ押収シタルカ如キニ至テハ其不敬亂暴殆ント言フニ忍ヒサルナリ

(參照)

盟約第七條(宗制第一號)

貫首交代ノ節ハ全國未派ノ投票ヲ以テ後任ヲ確定シ之ヲ選舉スルニ方リ互ニ添書ヲ請求シテ兩寺一体ノ公証トナスヘシ

(七) 内務省ノ處分ニ關スル事

明治廿五年内務大臣ハ總持寺住職畔上楳仙ノ管長認可ヲ解除シ臨時宗

務ヲ處辨セシムル爲メ事務取扱ヲ置キ一時管長ノ空席ヲ補充セシメ
カ爲メ翌廿六年ニ至リ更ニ内務大臣ハ宗制ニ關セス訓令ヲ發シテ右事
務取扱人ニ管長カ有スル特權ヲ付與シ以テ惣テノ管長權ヲ施行セシメ
タリ

同年事務取扱ハ内務大臣ノ訓令ヲ奇貨トシ大ニ未派寺院ニ制裁ヲ加ヘ
爲メニ宗内ヲ黜斥スルモノ四名住職罷免スルモノ廿六名徘徊ヲ止ムル
モノ二名ノ多キニ及ヒタルモ各受制裁者ハ本末憲章第二十三條ニ基キ
悉ク其處分ヲ破毀シタリ

附言

内務省ハ前斷ノ如ク不法ナル退隱申告ヲ相當ト認メ昨上禪師ノ管長
ヲ解任シタルノ結果森田師ヲ管長ノ後任ト爲サントスルモ其住職未
ニ確定セサルヲ以テ之ヲ任スルヲ得サレハ止ムナク一時便宜ノ爲メ
事務取扱ナル者ヲ設ケラレタルナリ實際如此處分ハ時勢上必要ナリ

シナラント雖凡テ一宗ノ事務ハ之ヲ管長ニ任セ行政權ヲ以テ干涉
ス可ラサルハ信仰自由教務自治ノ大義ニ於テ自ラ然ラサルヲ得サル
處ナリ故ニ其事務取扱ヲ設クルハ余儀ナキ必要ニ出テタリトスルモ
其事務ノ範圍ニ至リテハ大ニ戒慎ヲ加ヘ緊急時ヲ遷ス可ラサルモノ
、外之ヲ避クルヲ勉ム可キモノナリ訓第六七〇號ヲ發シテ寺院住職
ノ任免黜斥ヲ行フニ至テハ明治十七年太政官達第十九號ニ背戾スル
ヤ論ヲ俟タス全十九號ハ全國寺院ノ住職ハ其宗管長ニアラスンハ任
免セラル、コト無キ權利ヲ法律ニ依テ保證セラル、モノナリ然ルヲ
今日内務省カ法律ニ背キ行政權ヲ以テ管長ノ權利ヲ代行セントスル
ハ宗教ノ獨立ヲ侵害シタル甚シキモノト云ハサルヲ得ス况ヤ宗制上
毫モ權能ヲ有セサル事務取扱ニ於テ管長モ容易ニ決行セサル宗門擯
斥ノ強刑ヲ加ヘ若クハ住職ノ罷免ヲ行フ如キニ至テハ最暴戾ノ極ト
謂ハサルヘカラサルナリ終リニ臨ンテ一言スヘキハ凡テ盟約上ノ制

裁ハ之ヲ破リタルヤ否ヤ事實ヲ確定セス直チニ執行シ得ルモノトセ
ハ受制裁者ハ直チニ宗制第二號第五章第廿三條ニ依リ其申告ノ盟約
ニ違背スルヤ否ヤヲ確定スルヲ用スシテ自擅ニ違背ノ廉アリト爲シ
之ヲ破棄スルモ有効ト爲サ、ル可ラス果シテ如斯ナランカ凡テノ制
裁ハ悉ク破棄セラレ終ニ宗制ヲシテ空文ニ歸セシムルニ至ルヘシ知
ル可シ退隱申告ハ其手續上事實確言ヲ爲サ、ル可ラサルモノナル事
ヲ

(参照)

内務省訓令第八號

曹洞宗

其宗管長畔上様仙ノ管長認可ヲ解除シ四有穆山森田悟由兩名へ事務取扱ヲ命シ隣機
宗務ヲ處務セシム

明治廿五年五月六日

内務大臣伯爵副島種臣

内務省訓令第四一八號

其宗管長未定中ハ事務取扱ニ於テ臨時管長ノ職權ヲ以テ宗制宗規ニ依リ宗務ヲ統理
スル哉ト心得ヘシ

明治廿六年五月卅一日

内務大臣伯爵井上 馨

内務省訓令第六七〇號

其宗内宗制宗規違犯ノ聲ハ本年五月卅一日訓令第四一八號訓令ノ旨ヲ領シ宗制宗規ニ
依リ嚴正處分ス可シ右訓令ス

明治廿六年十一月八日

内務大臣伯爵井上 馨

宗制第二號第五章第廿三條

此憲章ニ抵觸スル命令ハ假令曹洞宗務局ヨリ發スルモノタリトモ未派寺院之ヲ違奉
セサルハ勿論ニシテ之ヲ破毀スルノ權ヲ有スルモノトス

分離私見

前段事實並ニ附言ト題シテ記載セシ如ク本宗ノ紛擾ハ其歴史悠久ニレ

テ徳川幕府朱印條目ヲ制定セシヨリ以來本山寺格ノ争議絶ユル時ナク
 明治五年ニ至テ大藏省戶籍寮演達ニ依リ兩寺獨立本山タル寺格ヲ確認
 セラレ併立協同管長職ヲ行フ可キノ旨ヲ達セラレ續テ此演達ニ基キ兩
 山盟約ヲ締結シテ一度古來ノ本山權争奪ノ紛議茲ニ一段落ヲ告ケタリ
 ト雖モ該盟約ノ結果ハ更ニ一轉シテ事務ノ當否權限ノ衝突ニ付キ又々
 今回ノ紛擾ヲ惹起シ來リ向來益々紛争ハ紛争ヲ重テ殆ント停止スル處
 無シ吾曹檀信徒ノ本分トシテ之レカ善後ノ策ヲ講シ廣ク同志ニ謀リ一
 日モ早ク鎮定ヲ爲サ、ル可ラサルナリ然ラハ之レカ紛争ノ根治ヲ爲シ
 鎮定ヲ爲サントスルハ抑モ如何シテ可ナルヤ或ハ曰ク盟約ヲ履行シテ
 舊宗制ヲ維持スルニ在リト斯ハ甚々事情ヲ盡サ、ルモノ、言ノミ抑モ
 兩山ハ明治五年以前ハ本山寺格ノ争論ノ爲メ數百年間ノ抗爭解ク可ラ
 サル怨ヲ結ヒ假令五年ノ演達ト盟約トニ依リ寺格ノ争論ヲ鎮メシモ兩
 山ノ感情ハ之ヲ和融セシムルニ由ナク爾後紛争ヲ重テシコト前後幾回

ナルヲ知ラス其著シキモノヲ擧クレハ第一永平寺ノ企ニ係ル諮問會提
 出案ノ如キ第二森田師撰擧件ノ如キ第三呼上禪師退隱申告件ノ如キ第
 四森田師尊像押收處分ノ如キ其他小軋轢小紛争ニ至テハ數フルニ違マ
 アラサルナリ之レ畢竟兩山古來歴史上ノ感情ハ區々タル盟約ニ依テ消
 滅セシムヘキモノニアラサレハ盟約協同ノ宗制ハ偶々以テ紛擾誘起ノ
 媒タリシニ外ナラサルナリ既ニ明治五年ノ演達ヲ以テ兩山ノ寺格ヲ確
 定セラレタレハ今日分離スルモ五年以前ノ如キ寺格ニ付キ争議ノアル
 ヘキニアラサレハ其紛議ノ媒タル盟約ヲ廢シ分離ヲ爲スノ外一ノ良策
 無キナリ

吾曹ハ既ニ如此事實上ノ觀察ニ於テ大ニ斷案ヲ下シ以テ治安ヲ維持ス
 ルニ兩寺ヲシテ斷然分離セシメサルヘカラサルノ必要ヲ認ム
 以下進ンテ法律上ノ觀察ニ於テ其分離ハ權利トシテ爲シ得ヘキモノナ
 ルヤ否ヤヲ研究ス可シ先ツ此問題ヲ決定スルノ前ヘ左ノ三點ニ付キ意

見ヲ述ヘン

第一 兩山盟約ハ有効ナルヤ否ヤ

此點ヲ案スルニ吾人國民カ信教ノ自由教務ノ自治權ヲ有スルハ憲法第廿八條ニ依テ保證セラル、而已ナラス明治十七年太政官第十九號第二條末段「佛道ニ於テ各派管長一人ヲ置クモ妨ケ無シト規定シアル上ヨリ考フルモ一宗一派ノ管長ヲ置キ得ルハ其宗其派全体ノ權理ニシテ管長ノ職務ハ一宗一派ノ共同体ニ屬スル公務ナリト云ハサル可ラス然ラハ則チ貫首カ一宗一派全体ノ承諾ヲ竣タス自擅ニ他派ノ貫首ト私約ヲ結ヒ他派ノ貫首ヲ交番ニ管長タラシムル如キコトハ貫首ノ職務上爲シ得ヘカラサルモノニシテ末派ノ有スル宗門上ノ權利ヲ蕪如スルト甚シキモノナリ夫レ管長ハ專ラ其宗其派ノ信用ヲ以テ其職務ヲ委托セラレタルモノナリ然ルニ其委托ニ背キ他宗他派ノ貫首ト擅ニ交代スルト得ルト云フニ至テハ其不法ナルコト論ヲ待タサルナリ

論者或ハ明治五年ノ演達ヲ引用シテ其盟約ハ私約ニアラスト云ハン然レトモ明治十七年太政官第十九號ハ動カス可ラサル法律ナレハ新法ハ舊法ヲ廢スルノ原則上彼レ是レ効力ヲ争フ可キモノニアラサルナリ

第二 兩山盟約ヲ不法ニアラストスルモ檀信徒ニ効力ヲ及ホス可キモノナルヤ

今假リニ兩山盟約ハ兩山貫首私擅ニ交番スルコトヲ契約爲シ得可キ權能アルモノト定ムルモ是レ一宗一派ノ共同体ノ承諾ヲ經スシテ單ニ貫首一個ノ私ニ出テタルモノナレハ其契約ノ効力ヲ當事者外ノ第三者タル檀信徒ニ及ホス可キモノニアラス檀信徒ハ憲法ト法律ト(太政官十七年第十九號)ニ依テ一派一管長ヲ置キ管長事務ヲ行ハシムル權利ヲ有スルコトヲ知ルノ外貫首一個人ノ契約ニ羈束セラル可キ義

務ナキモノナリ故ニ交番管長ノ盟約ヲ排斥シ自家固有ノ權利ヲ伸張シテ獨立管長ヲ撰定ス可キハ何時何人ニ對スルモ忌憚スル處アラサルナリ

第三 第一第二ノ理由ヲ無視スルモ盟約第九條ハ無効ノ契約タルニアラスヤ

既ニ盟約ノ効力ヲ研究スルハ一二ノ理由ニ依テ十分ナリト雖モ假リニ退テ其理由ナキモノトスルモ尙盟約第九條ノ無効ナルコトハ論ヲ俟マス何トナレハ兩山互ニ訴願ヲ爲サスト契約スルハ法律上無効ノ契約ナレハナリ尤モ其訴願トハ本山寺格ニ關スル訴願ノミトスレハ有効ト解釋シ得ヘキモ其文中兩山訴願ヲ企テタル貫首ハ其本山ノ權利ヲ抛擲セルモノト認ムト云フカ如キ元來木山權ハ貫首ノ自儘ニ處分シ得ヘキモノニアラサレハ即チ所謂不能的ノ事項ヲ目的トスル契約ニシテ越權無効ノ契約ナレハナリ

上來研究セシ理由ニ依レハ吾曹檀信徒ノ力ヲ以テ曹洞一宗革新能山分離ノ成效ヲ奏シ得ヘキハ憲法ト太政官達トノ保護ニ依リ毫モ兩山盟約ニ拘束ヲ受ケスシテ安々地ニ其志望ヲ遂ク可キナリ世間或ハ這般ノ舉ヲ以テ太政官達十九號第一條各宗派妄リニ分合ヲ唱ヘ或ハ宗派ノ間ニ爭論ヲ爲ス可ラストアルニ背戾スヘシト云フモノアラハ是レ實ニ價直ナキノ妄言ノミ何トナレハ妄リニ分合ヲ唱フルハ固ヨリ惡シ然レトモ今回ノ分離ハ必要上爲サル可ラサルヲ爲スト云フ理由ノ存在スレハナリ况ンヤ其所謂分離トハ新ニ宗派ノ分離ヲ爲サント云フニアラスシテ既ニ數百年來特殊ノ由緒アリテ畫然派別アル兩山ニ在テ別派ノ管長ヲ置キ事務ノ混同ヲ分割セント云フモノナルニ於テヲヤ又况ンヤ其混同ハ兩山貫首ノ私約ニ成リ檀信徒ノ與リ知ラサルモノナルニ於テヲヤ既ニ所論ハ一決セリ嗚呼天下幾百万ノ檀信徒ヨ社會平和ノ爲メ自家信教自由權回復ノ爲メ相呼應シテ本宗ニ一大革新ヲ與ヘ以テ宗教界腐敗

務ナキモノナリ故ニ交番管長ノ盟約ヲ排斥シ自家固有ノ權利ヲ伸張シテ獨立管長ヲ撰定ス可キハ何時何人ニ對スルモ忌憚スル處アラサルナリ

第三 第一第二ノ理由ヲ無視スルモ盟約第九條ハ無効ノ契約ナルニ
アラスヤ

既ニ盟約ノ効力ヲ研究スルハ一二ノ理由ニ依テ十分ナリト雖モ假リニ退テ其理由ナキモノトスルモ尙盟約第九條ノ無効ナルコトハ論ヲ俟タス何トナレハ兩山互ニ訴願ヲ爲サスト契約スルハ法律上無効ノ契約ナレハナリ尤モ其訴願トハ本山寺格ニ關スル訴願ノミトスレハ有効ト解釋シ得ヘキモ其文中兩山訴願ヲ企テタル貫首ハ其本山ノ權利ヲ拋擲セルモノト認ムト云フカ如キ元來木山權ハ貫首ノ自儘ニ處分シ得ヘキモノニアラサレハ即チ所謂不能的ノ事項ヲ目的トスル契約ニシテ越權無効ノ契約ナレハナリ

上來研究セシ理由ニ依レハ吾曹檀信徒ノ力ヲ以テ曹洞一宗革新能山分離ノ成効ヲ奏シ得ヘキハ憲法ト太政官達トノ保護ニ依リ毫モ兩山盟約ニ拘束ヲ受ケスシテ安々地ニ其志望ヲ遂ク可キナリ世間或ハ這般ノ舉ヲ以テ太政官達十九號第一條各宗派妄リニ分合ヲ唱ヘ或ハ宗派ノ間ニ爭論ヲ爲ス可ラストアルニ背戾スヘント云フモノアラハ是レ實ニ價直ナキノ妄言ノミ何トナレハ妄リニ分合ヲ唱フルハ固ヨリ惡シ然レトモ今回ノ分離ハ必要上爲サル可ラサルヲ爲スト云フ理由ノ存在スレハナリ况ンヤ其所謂分離トハ新ニ宗派ノ分離ヲ爲サント云フニアラスシテ既ニ數百年來特殊ノ由緒アリテ畫然派別アル兩山ニ在テ別派ノ管長ヲ置キ事務ノ混同ヲ分割セント云フモノナルニ於テヤ又况ンヤ其混同ハ兩山貫首ノ私約ニ成リ檀信徒ノ與リ知ラサルモノナルニ於テヤ既ニ所論ハ一決セリ嗚呼天下幾百万ノ檀信徒ヨ社會平和ノ爲メ自家信教自由權回復ノ爲メ相呼應シテ本宗ニ一大革新ヲ與ヘ以テ宗教界腐敗

ノ空氣ヲ一新シ上ハ高祖太祖ノ遺訓ニ對シ下ハ億兆ノ法孫ニ對シ外ハ
無數ノ外教ニ對シ本宗檀信ノ光輝ヲ顯揚スルコト豈ニ努メサルヘケン

前文ノ趣旨ニ同意ヲ表ス

法學博士 鳩山和夫

法學士 鈴木充美

法學士 三崎龜之助

法學博士 岸 小三郎

明治廿七年六月一日印刷
明治廿七年六月五日發行

發者
行述
者兼

住 田 淺 吉

東京市京橋區山城町三番地

印 刷 者

石 崎 安 藏

東京市芝區宮本町二十九番地

印 刷 所

共 益 商 社 印 刷 部

東京市芝區宮本町二十九番地

非 賣 品

2F-81